

基礎講座

緊急事態下の「国連の援助調整機関」と「ユニセフの調整部署」

スマトラ沖地震・津波のような大規模な緊急事態が発生した場合、いろいろな支援機関の援助が迅速で効率的に進められるように、各支援機関の調整をする機関があります。

この役割を担っているのが国連人道問題調整事務所(OCHA:Office for the Coordination of Humanitarian Affairs)です。また、ユニセフの中には、ユニセフの緊急援助を調整する部署(OPSCEN:UNICEF's Operation Center)があります。

どんな国連機関が、どんな活動で協力しあっているか調べ、学習に活用してください。

国連人道問題調整事務所(OCHA)の活動

OCHAは、1998年の国連の組織の見直しにより、自然災害や紛争などの緊急事態に、国連機関全体の人道援助活動の調整を行う機関となりました。

OCHAが緊急事態でその役割を増すようになった背景には、1990年以降、自然災害や紛争により多くの人びとが重大な影響を受けるようになった状況があります。2003年には自然災害によって2億人が被災し、紛争によって4,500万人もの人びとが命の危機から逃れるために支援を求めています。こうした緊急事態に際し、国際社会としてどう対応するのかという課題の調整機関としての任務を担っているのがOCHAなのです。

OCHAは860人の職員がニューヨークやジュネーブ、各国事務所で緊急事態に備える体制をとっています。人道的危機の政治的、社会的、経済的、軍事的、環境的影響を分析し、援助計画を国連機関やその他の機関と共に作成したり、会議を召集したり、援助に必要な資金を呼びかける合同の要請を準備したり、各機関が人道援助を実施する時の事務局の役割等も果たしています。

スマトラ沖地震・津波による緊急事態に際しても、ユニセフ、UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)、WFP(世界食糧計画)などさまざまな国連機関、各国政府、NGOなどの協力関係を調整し、緊急人道援助に関する国連としての政策のとりまとめを発表しました。

OCHAの調整のもと、右上の図の国連機関がスマトラ沖地震・津波の緊急・復興援助にかかわっています。ユニセフの活動もOCHAの調整に基づいて行われています。



出典:国際連合ホームページ

ユニセフ・オペレーション・センターの活動



ユニセフ・オペレーション・センターで活動するスタッフ ©UNICEF

1996年にユニセフ本部内に、緊急援助調整部署として「ユニセフ・オペレーション・センター」が設置され、24時間体制で、ユニセフ本部、各国ユニセフ事務所、物資供給センターを結んで緊急援助

事業を調整しています。

ここで働く職員は全員、数カ国語に通じており、合計12カ国語での対応が可能となっています。センターは、緊急事態の時だけでなく、いつでも、すべての子どもにユニセフの効果的な人道援助を提供することを目的に活動しています。

●レポートのご案内●

今号でご報告しましたユニセフ スマトラ沖地震・津波 緊急・復興募金によるユニセフ支援活動をわかりやすくまとめたレポートを作成しました。ご希望の方は学校事業部までお問い合わせください。 ☎03-5789-2014 FAX 03-5789-2034

